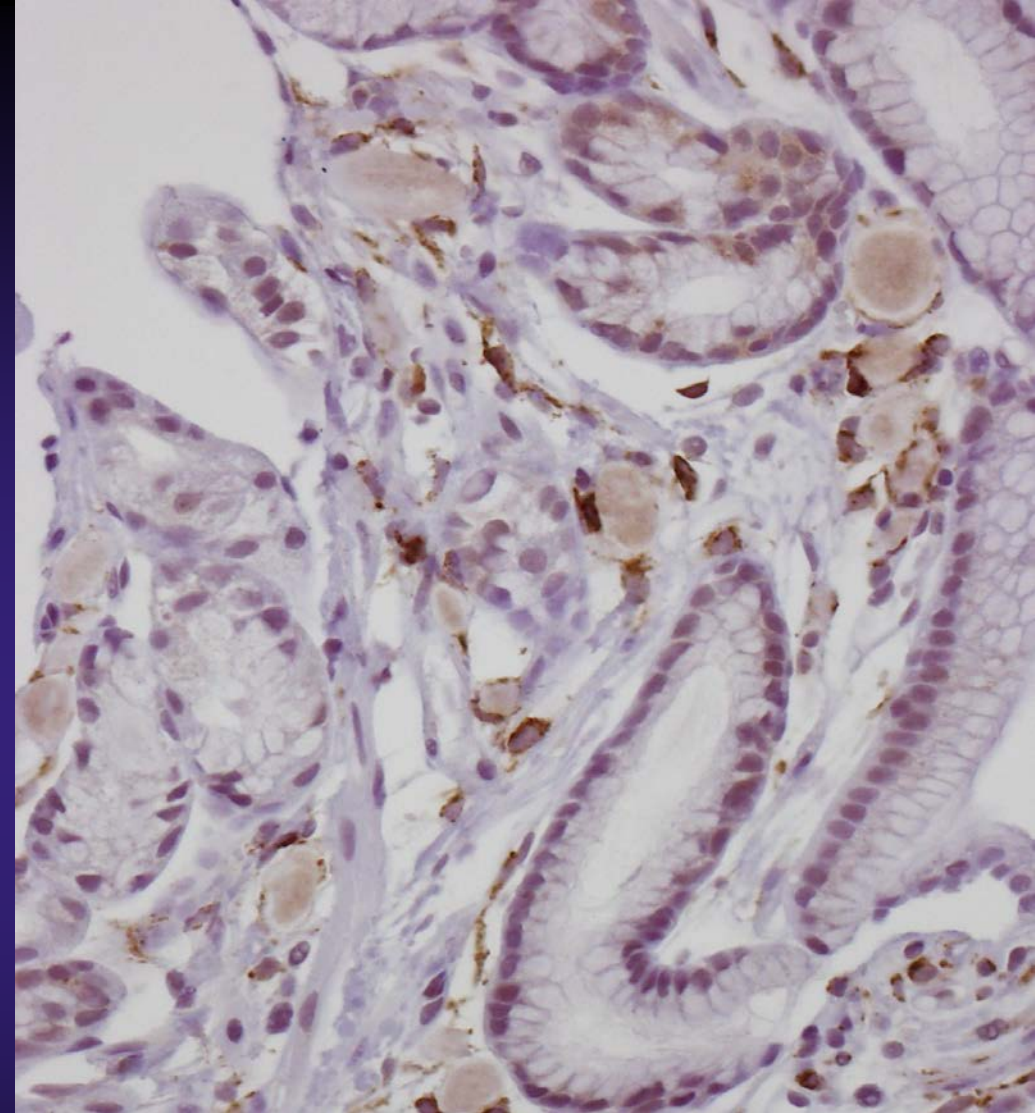
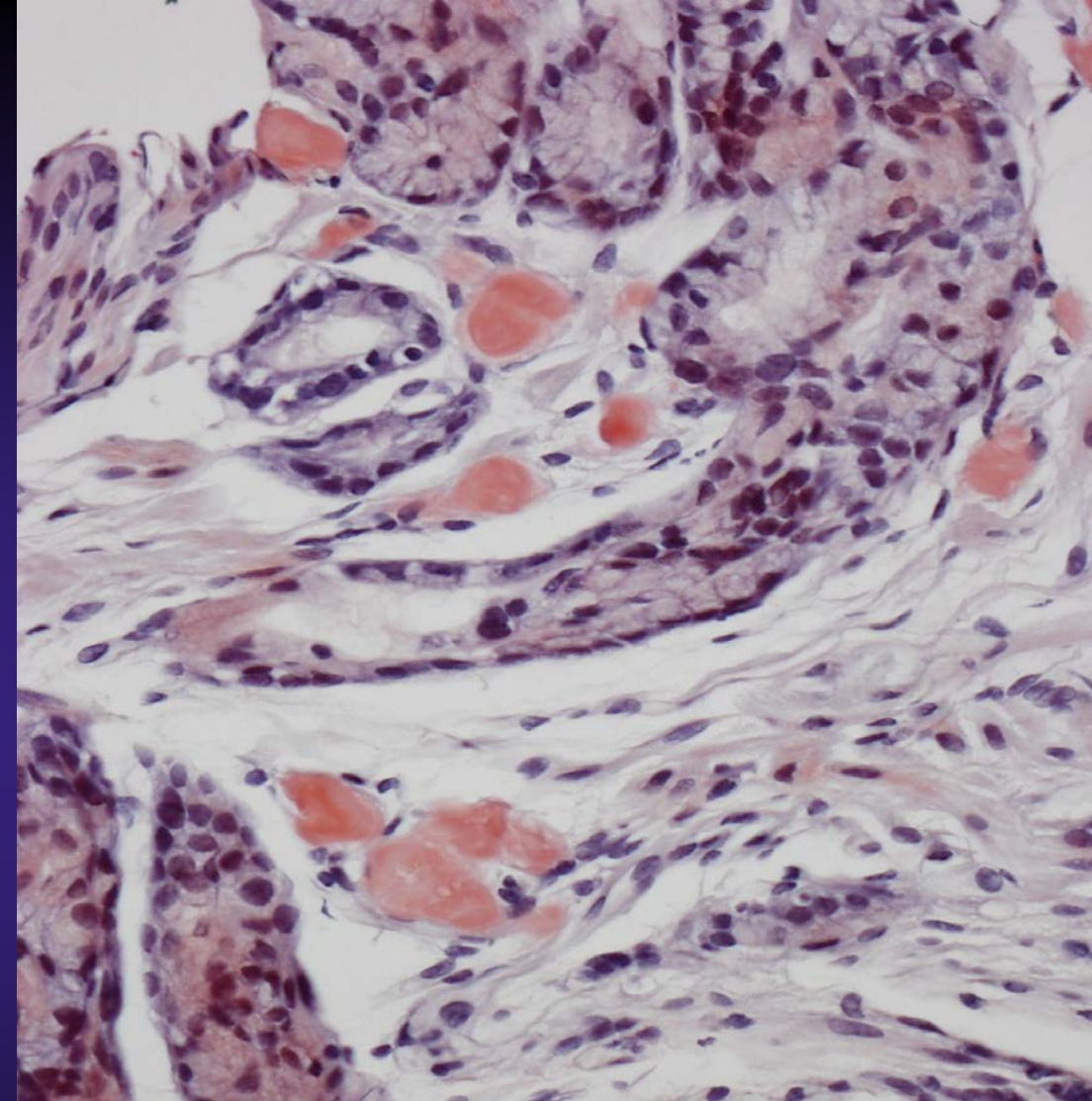


まとめ

1. T細胞活性化調整剤アバタセプトはRAおよび合併したAAアミロイドーシスに臨床効果を示し、炎症性サイトカインや制御性T細胞に影響を及ぼした。
 2. 抗fPRL1抗体や抗CD68抗体陽性の好中球やマクロファージなどの貪食細胞がアミロイド退縮に関与していると類推された。
 3. T細胞機能がアミロイド形成・代謝などの過程に影響を及ぼしている可能性がある。
 4. RA合併AAアミロイドーシスの治療法として抗サイトカイン療法以外の選択肢が挙げられた。
-



抗CD68抗体陽性のマクロファージは沈着アミロイドの周囲を取り囲むように染色され、アミロイド退縮に貪食細胞が関与していることが強く示唆された。